

インフルエンザ予防接種を受ける方へ

《高畠町》

予防接種を受ける前に、必ずお読みください。

- 気にかかることや、分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に質問し、十分理解したうえで接種を受けてください。
もし、納得できない場合には、接種を受けないでください。
- 予診票は、予防接種の可否を決める大切な情報です。正しい情報を医師に伝えてください。

1. 予防接種を受けることが適当でない人

- (1) 体温が 37.5℃以上の発熱のある人
- (2) 重篤な急性疾患にかかっている人
- (3) インフルエンザの予防接種を受けて、アナフィラキシー（ひどいアレルギー反応）を起こしたことがある人
※鶏卵、鶏肉などでアナフィラキシーショックを起こしたことがある方も受けることができません。
- (4) その他、医師が不適当と判断した人

2. 担当医とよく相談しなくてはならない人

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患やその他慢性の病気で治療を受けている人
- (2) 前に予防接種を受けた時に、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られた人
- (3) 今までにけいれんを起こしたことがある人
- (4) 今までに中耳炎や肺炎などにかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- (5) 今までにぜん息等の呼吸器系疾患があると診断された人
- (6) 鶏卵、鶏肉等に対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

3. 予防接種を受けた後の注意事項

- (1) 接種後30分間は、急な副反応が起きることがあります。医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- (2) 副反応の多くは、24時間以内に出来ますので、この期間は体調の変化に注意しましょう。
- (3) 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすらないでください。
- (4) 激しい運動や多量の飲酒はさけましょう。

4. インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザ予防接種は、インフルエンザ感染症や発症そのものを完全には防御できませんが、重症化や合併症の発生を予防する効果が証明されています。高齢者に対してワクチンを接種すると、接種しなかった場合に比べて、死亡の危険を20%に、入院の危険を約30%～50%にまで減少させることが期待できます。

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5か月とされています。より効果的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前の12月中旬までに接種を受けておくことが必要です。

5. インフルエンザ予防接種の副反応

- (1) 予防注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日で治ります。
- (2) 熱が出たり、悪寒がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。
- (3) 接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れることがあります。
- (4) 非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

※接種後、上記のような症状が起こった場合は医師の診察を受けてください。

6. 予防接種健康被害救済制度について

インフルエンザの定期予防接種による健康被害者からの健康被害救済に関する請求について、その原因がインフルエンザの予防接種であると厚生労働大臣が認定した場合、障害年金や医療費・医療手当等の給付を受けることができる救済制度があります。